

！算数科の原理原則！

原則 3 = 四捨五入の仕方

- 1) 0・1・2・3・4は切り捨て、5・6・7・8・9は切り上げる。
- 2) 四捨五入をする時は、1つ前の位で。
- 3) 範囲を求める問題は、「5」がキーワード

■例題でこのことを考えてみましょう。

【例題 1】 3456 という数字があります。

① 10 の位で四捨五入を下さい。

3	4	⑤	6
---	---	---	---

⇒10 の位を○で囲みます。そして、その1つ前の位、つまり「1の位」で処理をします。「6」は、切り上げになりますね。だから、56は60となり、答えは3460となりますね。

② 100 の位で四捨五入を下さい。

3	④	5	6
---	---	---	---

⇒同様に、10の位の「5」は切り上げですから、正解は3500となります。

【例題 2】 1500 という数字があります。

① 1 未満を四捨五入して、1500 になる数の範囲を答えなさい。

⇒1 未満ですから、その1つ前の小数第1位の数字で考えます。「() 以上 () 未満」という言葉を使って、答えを表します。可能性がある数字は、以下の通りです。< 1499.5 1499.6 1499.7 1499.8 1499.9 1500.0 1500.1 1500.2 1500.3 1500.4 >

つまり、こうなります。**1499.5 以上 1500.5 未満**

② 10 未満を四捨五入して、1500 になる数の範囲を求めなさい。

⇒同様に、10の位の1つ前、つまり1の位で考えて、**1495 以上 1505 未満**となります。このように、**範囲の問題では、5がキーワード**です。

「以」がつく場合はその数を含める。

5 以下⇒ $5 \cdot 4 \cdot 3 \cdot 2 \cdot 1$

「未満」はその数を含めない！

5 未満⇒ $4 \cdot 3 \cdot 2 \cdot 1$

● 「より上」「より下」という場合は、その数を含めません。

5 より下⇒ $4 \cdot 3 \cdot 2 \cdot 1$ となります。

■では、問題を解いてみましょう。

！算数科の原理原則！

<1> 3 4 5 6 という数字があります。1000 の位で四捨五入を下さい。

③ ~~4~~ 5 6 A _____

<2> 100 未満を四捨五入して、1500 になる数の範囲を答え下さい。

⇒その1つ前の位で考えるので、…… A 以上 未満

【例題 3】 次の計算の答えを、小数第 1 位の概数で求め下さい。

$$\begin{array}{r}
 19.\textcircled{3}7 \\
 \hline
 2.4 \overline{)46.5} \\
 \underline{24} \\
 225 \\
 \underline{216} \\
 90 \\
 \underline{72} \\
 180 \\
 \underline{168} \\
 12
 \end{array}$$

● 小数第 1 位の前、つまり小数第 2 位の 7 で四捨五入をします。よって、答えは、**19.4** となります。

<3> 次の計算の答えを、小数第 1 位の概数で求め下さい。

$$0.15 \overline{)36.34}$$

A _____

	足し算	引き算	かけ算	割り算
式	加法	減法	乗法	除法
答え	和	差	積	商

※違いがわかった？